

「深い学び」みるみるシート 名前【



本年度の研究テーマ

共にことばの力を育み主体的に学ぶ子ども
～めあてにせまるしかけづくりの授業～

9/25(金) 4年 2組 国語「ごんぎつね」

単元名：登場人物の気持ちの変化を読み取ろう。

指導事項：友達の創作した物語を、交流する視点を基に、良いところを伝えること

【主体的に学習に取り組む態度】



子どもの変容

Blank area for notes related to the child's transformation.



教師のはたらきかけ
（「しかけ」の活用を含む）

Blank area for notes related to teacher's facilitation.



「深い学び」と言える理由

Blank area for notes explaining why it is 'deep learning'.



「深い学び」を導くためのポイント

Blank area for notes on points to guide 'deep learning'.

「深い学び」みるみるシート(例)



10/1(木) 4年1組 国語「ごんぎつね」

単元名: 気持ちの変化に着目して読み、感想を書こう。

指導事項: 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。 【思判表C(1)エ】



子どもの変容

【●●さん】

ずっと同じ場面を読んで「ごんは嬉しかった」と考えて止まっていたが、前の場面を読んだりノートを見返したりしながら再思考し始めた。そして、既習の内容から、ごんの兵十への思いの高まりを確認し、「嬉しさもあったけど、もっと兵十に近づきたかったという思いもある」と考えを変えた。



教師のはたらきかけ

【〇〇先生】

「あれ?ごんと兵十の関係は、最初の場面からずっと同じだったっけ?どうだったっけ?」と、机間指導しながら全員に聞こえるようにつぶやいた。



「深い学び」と言える理由

他の場面と結び付けたり比較したりしながら再思考を始め、考えを深めたから。



「深い学び」を導くためのポイント

既習の内容と行ったり来たりしながら考えることを促す教師の「つぶやき」や「追発問」。
(大きな発問でなくてよい)

現行の学習指導要領では、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が示されています。

しかし、それは道半ば。

次期学習指導要領では、とりわけ「深い学び」にスポットを当て、「『深い学び』の実装」がうたわれます。「実装」というのは、一層の具現化・深化を図るということです。

このように、「深い学び」を追究していくわけですが、子どものどんな状況が「深い学び」であるのか、私たちがイメージできなければ、「深い学び」を生み出す授業はつくれませんよね。

そこで、「深い学び」みるみるシートを用意しました。

このシートは、授業中の子どもの「深い学び」を見つけて、授業改善の見通しにつなげるためのシートです。

書き方は・・・

【子どもの変容】には、例のように、子どもの学びが深まった「事実」を書いてください。一人の子どものことでもグループのことでもかまいません。

【教師のはたらきかけ】には、その子どもの学びを深めた先生のはたらきかけ（発問、問い返し、つぶやきなど）について書いてください。

【「深い学び」と言える理由】には、なぜその子どもの学びが深まったと言えると考えたのか、理由を書いてください。

【「深い学び」を導くポイント】には、それらのことをふまえて、自分自身が授業をする上で、どんなことを意識すれば子どもの深い学びを導けるのか、「深い学び」を導くためのポイントについて書いてください。この一般化が、自身の授業改善につながります。

授業観察時に、このシートを持ち歩いて書いてください。

授業後の研究協議では、このシートを用いて協議し、一人ひとりの先生が「深い学び」の実装に向けた授業改善の見通しをもてるようにしましょう。

主体的・対話的で深い学びが生まれる活動例

	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
主体的な学び	● 学ぶことに興味や関心を持つ ● 自己のキャリア形成の方向性と関連付ける ● 見通しをもつ ● 粘り強く取り組む ● 自己の学習活動を振り返って次につなげる 	● 既習事項を振り返る ● 具体物を提示して引きつける ● 子供が明らかにしたくなる学習課題を設定する ● 子供が自らめあてをつかむようにする ● 学習課題を解決する方向性について見通しを持たせる ● 子供が自分の考えを持つようにする ● 子供の思考を見守る ● 子供の思考に即して授業展開を考える ● 子供の考えを生かしてまとめる ● その日の学びを振り返る ● 新たな学びに目を向けさせる
対話的な学び	● 子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める ● 教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める ● 地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める ● 先哲の考え方を手掛かりに考える	● 思考を交流させる ● 交流を通じて思考を広げる ● 協働して問題解決する ● 板書や発問で教師が子供の学びを引き出す
深い学び	● 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる ● 知識を相互に関連付けてより深く理解する ● 情報を精査して考えを形成する ● 問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう	● 資質・能力を焦点化する（つきたい力を明確にする） ● 単元や各授業の目標を把握する ● ねらいを達成した子供の姿を具体化する ● 教材の価値を把握する ● 単元及び各時間の計画を立てる ● 目標の達成状況を評価する